

◆関連文化財群と文化財保存活用区域

本計画では、歴史的・地理的に共通する文化財に一定のまとまりを持たせることで、措置の効果的な推進を図るため、佐倉市における歴史文化の特徴と対応する「関連文化財群」及び「文化財保存活用区域」を設定します。

▶関連文化財群

関連文化財群① 豊かな自然が育んだ印旛沼文化

- 主な課題** ・印旛沼は、市の象徴として認識されているがアピールポイントとなる文化財が明確になっていない。
- 主な方針** ・構成文化財をアピールポイントとした「印旛沼文化」のイメージを確立し、情報発信を推進。
- 主な措置** ・SNSや「佐倉市デジタルアーカイブ」の活用による印旛沼文化に関する戦略的な情報発信
・印旛沼文化に関する実物の文化財展示の推進

関連文化財群② 古東海道沿いに花開いた仏教文化

- 主な課題** ・仏教文化が栄えた古代の佐倉について、市民が学習する機会や見学できる文化財が少ない。
- 主な方針** ・出前授業や佐倉学講座で、地域の身近な歴史について学習する機会を設け、併せて情報発信を推進。

関連文化財群③ 中世武家の興亡の舞台

- 主な課題** ・本群の構成文化財や全体像を把握することができる場所や機会が少ない。
- 主な方針** ・各地区の展示スペースを活かし、繋げることで本群の構成文化財や全体像に触れる機会を提供する。

関連文化財群④ 地域で継承される祈りと暮らし

- 主な課題** ・個人や地域で歴史文化や文化財を担っていくことが人的・組織的・資金的に難しくなっている。
- 主な方針** ・所有者・管理者・継承団体のニーズを踏まえ、今後の確実な継承・担い手確保に向けた支援を実施。
- 主な措置** ・地域の伝統芸能の普及の推進
・文化財の所有者・管理者・伝承団体への補助金の交付や民間助成金の導入支援

▶文化財保存活用区域 江戸を支え、江戸と結ばれた城下町



主な課題

- ・既存の展示スペースが活かされておらず、文化財同士の面的な繋がりが乏しい。
- ・歴史文化を実際に体験し、楽しみながら学ぶことのできる機会が少ない。
- ・歴史文化の特性・強みが観光コンテンツとして十分に活かされておらず、観光客増加に繋がっていない。

主な方針

- ・構成文化財を活用した追体験・新体験の実施や、関連展示の充実、教育・観光の面での活用を推進。
- ・佐倉市観光ランドデザイン「観光Wコア構想」との連動により、構成文化財を旧城下町周辺の拠点として活用するための環境整備を推進。

主な措置

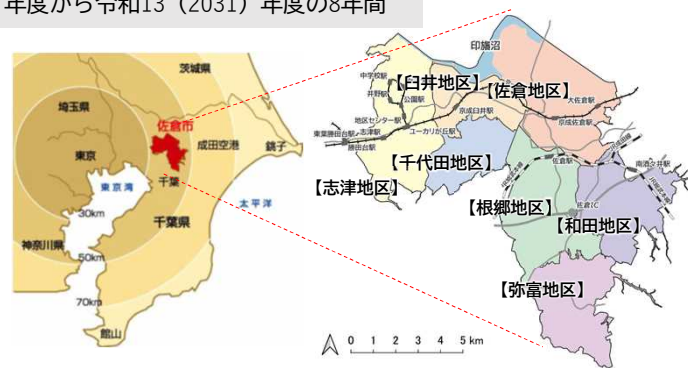
- ・城下町の歴史文化の魅力をより深く知ってもらう「追体験」の企画・実施
- ・城下町の歴史文化の価値や魅力に別の価値や魅力を付加する「新体験」の企画・実施
- ・日本遺産の構成文化財を活用した体験プログラムの造成・販売・ブラッシュアップ
- ・城下町の歴史文化をテーマとした社会科見学や修学旅行などの教育旅行の誘致
- ・区域内の既存の展示スペースの確保・維持とネットワーク化

◆計画期間

令和6(2024)年度から令和13(2031)年度の8年間

◆佐倉市の概要

- ・千葉県北部一帯に広がる下総台地の中央部に位置する首都圏近郊都市で、人口は171,037人(令和5年3月末時点)です。
- ・市北部には印旛沼があり、成田国際空港から約15km、県庁所在地の千葉市から約20kmの距離にあり、面積は104km²です。



◆5つの歴史文化

本市において歴史的に培われてきた地域の個性、地域らしさを示す歴史文化として次の5つを挙げます。

① 豊かな自然が育んだ印旛沼文化

佐倉市の原始・古代の人々の生活は、印旛沼とそこに注ぐ鹿島川や手繰川などの河川を背景に育まれた豊かな自然と、そこに生息する動植物を対象とした狩猟・採集・漁労活動によって繁栄しました。その結果、印旛沼南岸を中心に地域の核となる大規模な集落が形成されました。また、印旛沼を利用した水上交通により、遠隔地との盛んな交流・交易があったことがうかがえます。印旛沼は、近世以降の河川改修や干拓を経て大きく変貌を遂げましたが、人々に大きな恩恵をもたらし、日々の衣食住の生活基盤であったことに加え、他地域との交流・交易において重要な役割を果たしたのです。各時代に印旛沼周辺固有の文化が醸成され、これを「印旛沼文化」として捉えることもできます。



印旛沼

② 古東海道沿いに花開いた仏教文化

大宝律令の制定後、現在の佐倉市の大部分は下総国印旛郡となり、当時の政府は国を治るために都を起点とした幹線道路を整備しました。東京湾から香取海を越えて常陸国を結ぶ道路は「古東海道」と呼ばれ、佐倉市域を南北に伸びる現在の国道51号線に近いルートが想定され、沿線に仏教文化が花開いたことが多くの仏教関連の遺跡などによって知られています。加えて、古東海道は須恵器等の出荷などの地域間交流に用いられ、この道を介して当時の最先端の文化や技術が佐倉にもたらされました。当時の古東海道沿い周辺の佐倉は、都から派遣された多くの役人や技術者の活発な往来がある交通の要衝として栄えた場所であり、印旛地域の仏教信仰や政治の中心地として繁栄を迎えたのです。



伊面墨書土器

③ 中世武家の興亡の舞台

中世の佐倉は千葉氏をはじめとする武家が台頭し、近世の全国的な統一政権の樹立のなかに向かっていきました。離散集合を繰り返しながら勢力を広げた武家は、自らの本拠である城館を築き、城下には市が立ち、商賈が集住し、拠点と拠点をつなぐ街道・宿場も整備されました。そのなかで、鎌倉幕府成立期の千葉氏の台頭、南北朝期の臼井氏の興衰、享徳の乱にともなう千葉氏の分裂と本佐倉城の築城、臼井城における2度の大きな合戦、豊臣秀吉の天下統一により小田原北条氏と運命をともにした千葉氏、代わって関東を支配した徳川家康の一門・譜代の配置と転換など、佐倉は中世武家の興亡の舞台となりました。泰平の世となった後もその記憶は色濃く刻まれ、現在に至るまで語り継がれています。



本佐倉城跡

④ 江戸を支え、江戸と結ばれた城下町

土井利勝による佐倉城の築城以降、有力な譜代大名が城主となり老中をはじめとする幕府要職を務め、佐倉は江戸の東の要衝として政治的にも軍事的にも江戸を支えました。築城と同時に城下も整備され、江戸とは倉海道(成田街道)により結ばれました。また、幕末の佐倉は藩主堀田正睦のもと藩校成徳書院で充実した儒学・武芸や蘭学の教育が行われ、江戸から佐倉に移住した蘭方医佐藤泰然が開いた順天堂は、近代医学の発祥地のひとつに数えられています。明治初期には城内の建物が取り壊されたものの、町の人々がかつて江戸で使っていた江戸型山車を購入し引き廻しを行い、現在も江戸で失われた祭礼文化が佐倉で受け継がれています。このように、佐倉は城下町として江戸を支え、江戸と結ばれることにより発展し、現在もその趣きを感じることができるまちとなっています。



佐倉城跡

⑤ 地域で継承される祈りと暮らし

佐倉市には、古くからの創建にさかのぼる寺社、篤く信仰を集めそこに伝えられてきた仏像彫刻や寄進・奉納された宝物類、現在まで継承される祭礼文化・民俗・芸能など、様々な祈りと暮らしの場とかがたが現在に残っています。これらは、古代・中世に遡るものや、江戸の祭礼文化を今に伝えつつも佐倉独自の要素が交じり合ったもの、宗派の別なく地域の一大行事としても受け継がれているもの、農村の伝統的な生活文化を伝えるものなど、様々な特徴を持ち、幅広い地域・時代に分布しています。これらは各地域の個性を現在に伝えるものとして尊重され、地域の人々のたゆまぬ努力により継承されています。



坂戸の念仏

◆計画の将来像・目標と課題・方針・措置の概要

計画の将来像・目標とその実現に必要な3つの方向性、実現にあたっての大きなプロセスである大方針とその課題、課題解決に向けた流れの具体化である方針とそれに基づく措置の主要なものとの関係をまとめました。

将来像 計画期間中の目標

3つの方向性 (将来像の実現のために必要なこと)

大方針 (実現にあたっての大きなプロセス)

課題

方針 (課題解決に向けた流れの具体化)

措置 (重点施策を抜粋)

文化財でまちを元気に!!

佐倉に関わる全ての人が、身近に歴史文化を感じられるまちに

方向性①

「知らない」を
「知っている」に
～把握調査・情報発信～

▶まずは、市民・来訪者に
“歴史のまち”であることを
知ってもらう

方向性②

「知っている」を
「好き」に
～魅力向上・活用・保存～

▶文化財の魅力を通じて、
“歴史のまち”佐倉に
愛着を持ってもらう

方向性③

「好き」を
「守りたい」に
～継承・担い手確保・体制整備～

▶“歴史のまち”佐倉を
守る仕組みに
参加してもらう

①把握調査の推進と、正確かつ魅力的な情報の掘り起こし

- ✓把握できていない文化財がある。
- ✓調査が不十分な文化財がある。
- ✓指定・登録に至っていない文化財がある。

②一貫したより訴求力の高い情報発信

アート&クラフトフェア・チバ「にわのわ」

- ✓豊富な歴史文化を持つ佐倉の魅力が十分に知られていない。
- ✓地域住民が文化財に足を運ぶ機会が少ない。

③効果的・継続的な情報発信

- ✓SNS等を活用した情報発信が不足している。
- ✓展示施設がなく、文化財を直接目にする機会が少ない。

①他都市との差異を明確にしたブランディング

佐倉城復元CG

- ✓文化財の保存・活用でのブランドイメージの確立に至っていない。
- ✓佐倉学の改善、実施の継続。
- ✓地域の特性を活かした一体的な景観形成の不足。

②教育・観光面での活用による魅力を繰り返し伝える機会の提供

宝金剛寺所蔵牡丹唐草蓮華模様七条袷の修復

- ✓佐倉学において、実際に体験し、楽しみながら学ぶ機会がない。
- ✓佐倉の歴史文化の特性・強みが観光に十分に活かされていない。
- ✓市内を訪れた観光客の消費を促す施設や拠点が旧城下町周辺で不足。
- ✓まちなかの文化財の案内が十分でない。

③佐倉の魅力の源となる文化財の適切な維持管理・整備

- ✓文化財を公開していくため、適切な管理と修繕が必要
- ✓保存整備・活用が見込まれる文化財の今後のあり方についての検討が不十分。

①市民の歴史文化への想いをかたちにするための支援

- ✓継承活動に関わる地元住民の高齢化と新たに活動する住民の不足。
- ✓継承活動の進捗に差が生じている。

②次世代の文化財を守る人材、担い手の確保・育成

- ✓文化財や歴史文化に関わる活動のニーズがわからない。
- ✓市民が地域の文化財の保存・活用に参画するための窓口がない。

③文化財を支える体制の構築

- ✓文化財保護の役割分担が明確でない。
- ✓文化財の維持・管理や活動に要する費用の財源が十分でない。
- ✓文化財の適切な保存環境について各関係者との情報共有が十分でない。
- ✓市の博物館施設がなく、文化財を統括する体制が十分でない。
- ✓計画の推進にあたり、庁内連携と進捗管理が求められる。

①情報発信の前提となる把握調査や指定・登録の推進

②佐倉の歴史文化を「知らない」人に向けたメッセージの創出

③メッセージを踏まえた「追体験」「新体験」による普及啓発

「佐倉市デジタルアーカイブ」ホームページ

④既存・新規のツールを活かした効果的な情報発信

⑤歴史文化に関する継続的で幅広い展示の充実

⑥佐倉城や印旛沼の魅力を活かしたブランドイメージの確立

⑦佐倉学に関する事業体制の見直し

⑧「歴史のまち佐倉」にふさわしいまち並み・沿道景観の形成

⑨体験型による新たな「楽しい」佐倉学の展開

旧堀田邸での坐禅体験

⑩本市の特性を活かした新たな観光スタイルの展開

⑪観光客の誘致・消費促進に向けた拠点整備と連携体制の構築

⑫誰でも気軽に訪れることができる回遊機能の強化、環境整備

⑬歴史的建造物の保存整備

密蔵院薬師堂修復工事

⑭史跡・名勝・天然記念物の管理整備

⑮伝統芸能団体を地域を元気にするプレイヤーに

⑯市民や民間団体等の参加ニーズを踏まえた地域住民との連携体制の構築

⑰歴史文化を受け継ぐ新たな担い手の育成と円滑な継承

⑱文化財を守るための持続可能な保存・管理体制の構築

⑲文化財を守るための持続可能な財源の確保

⑳文化財の望ましい保存環境の構築・提案

㉑展示スペースの確保とネットワーク化による「まちの博物館化」

㉒計画推進・進行管理による実効性の確保

現状の把握が不十分な未指定文化財の把握調査

佐倉の歴史文化を「知らない」人をターゲットとしたメッセージの整理・検討

文化財の持つそのものの価値や魅力を深く知ってもらう「追体験」の企画・実施

文化財の持つそのものの価値や魅力に別の価値を付加する「新体験」企画・実施

若い世代を対象としたSNS等の活用による戦略的な情報発信

文化財の情報をまとめた冊子の編集・発行・販売

「佐倉市デジタルアーカイブ」による情報公開の推進

歴史文化に関する実物の文化財の展示と各地区の展示スペースの機能・役割の見直し

シティプロモーションにおける佐倉城や印旛沼に関する魅力の明確化

佐倉学におけるSDGsや探求学習などの新しい視点による幅広い文化財の活用

各小学校区を対象とする「わがまち探検隊(仮)」の結成

「佐倉市GIGAスクール構想」と連携したICTを活用した情報教育の展開

日本遺産を活用した体験プログラムの造成・販売・ブラッシュアップ

「学び」のコンテンツを活かした校外学習・教育旅行の誘致

文化財施設をはじめとする歴史的建造物の日常的な管理と定期的な保存修理

旧井家住宅・旧井家住宅の効果的な活用・魅力向上のための保存整備

麻賀多神社神輿渡御

地域の伝統芸能の普及の促進

継承活動におけるモデルケースの確立とノウハウ波及に向けた支援

弥勒町八幡太郎江戸型山車の修理と組立指導

文化財の所有者・管理者・伝承団体への補助金の交付や民間助成金の導入支援

文化財施設の入館料・使用料などの収入の維持・拡大

保存環境の実態に関する調査とより望ましい保存環境の構築・提案

埋蔵文化財の保護に関する諸手続きの見直し

展示・収集スペースの確保・維持とネットワーク化